

白神山地における地すべり地の自然環境の持続可能な 利活用に関する意見交換会の開催について（要領）

世界遺産でブナを主体とする冷温帯落葉広葉樹からなる白神山地は、日本有数の地すべり多発地帯です。地すべり地は、その移動による土砂災害の危険性を持つ一方で、地すべりによって形成される緩急に富んだ地形や地下水条件などが、多様な景観や植生を生み出しています。こうした特徴を持つ地すべり地の地生態学的な環境は、潜在的に地域資源になりうる地生態学的素材に恵まれており、自然環境の理解と保全意識を醸成する地学教育・環境教育資源として活用できる可能性が高く、地域の観光資源として活用することも期待できます。

弘前大学は地方大学の役割として地域貢献も目指しており、ミッション実現戦略プロジェクトにおいて、「白神山地における地すべり地の自然環境の持続可能な利活用と保全の検討」にも取り組んでおります。この事業では、地すべり地の地生態学的要素を発掘することや、来訪者の動態・ニーズなどを解明することに加え、その成果を地域貢献に活用する方策を提言することを目的としています。

その具体的な内容としては、

- 1) 来訪者にわかりやすく解説できるよう調査で得られた情報をガイドに提供すること
 - 2) ガイドが現地での活動で活用しやすい教材等を開発すること
 - 3) 白神山地の価値への理解を広げ、自然資源を活かした持続可能な地域づくりに繋げること
- 以上を目指しています。